

日本フィル&サントリーホール

とっておき アフタヌーン

2023.2.1 (水)

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA
&
SUNTORY HALL
MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS
“Totteoki Afternoon” Vol. 21

2022~23
シーズン

Vol. 21

人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

 JAPAN
 PHILHARMONIC
 ORCHESTRA
 創立指揮者 渡邊 暁雄


 SUNTORY HALL

日本フィル&サントリーホール
とっておき アフタヌーン Vol. 21

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA
 &
 SUNTORY HALL
 MATINEE CONCERT SERIES ON WEEKDAYS
 “Totteoki Afternoon” Vol. 21

2023年2月1日(水) 14:00開演
サントリーホール 大ホール

Wednesday, February 1, 2023 at 14:00
 Suntory Hall, Main Hall

指揮: **広上淳一** [フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)]

Junichi Hirokami, Conductor (Friend of JPO/Artistic Advisor)

サクソフォーン: **上野耕平**

Kohei Ueno, Saxophone

ナビゲーター: **高橋克典**

Katsunori Takahashi, Navigator

日本フィルハーモニー交響楽団

Japan Philharmonic Orchestra

コンサートマスター: **木野雅之** [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Masayuki Kino, JPO Solo Concertmaster

[主催]

日本フィルハーモニー交響楽団 / サントリーホール

[協力]

ANAインターコンチネンタルホテル東京

◆館内ではマスクを着用ください。◆館内でのお客様同士の大きな声での会話、演奏に対するブラボーなどの掛け声はお控えください。◆こまめな手洗い、手指消毒、「咳エチケット」の励行をお願いいたします。◆飲食の際には、会話時のマスク着用をお願いいたします。◆周囲の方との距離を空けて、密集を避けるようご協力ください。

ドリーブ: バレエ組曲『シルヴィア』より 第4曲「バッカスの行進」
 Léo Delibes: No. 4 “Procession of Bacchus” from *Sylvia* Suite

ミヨー: 『スカラムーシュ』作品165c
 Darius Milhaud: *Scaramouche*, Op. 165c

- I. Vif (速く)
- II. Modéré (中庸に)
- III. Brazileira (ブラジル風舞曲)

ピアノソラ(啼鵬 編曲):
 Astor Piazzolla (arr. Teiho):

『エスクアロ(鯨)』
Escualo

『オブリビオン(忘却)』
Oblivion

『リベルタンゴ』
Libertango

サクソフォーン: **上野耕平**
 Kohei Ueno, Saxophone

— 休憩 —
 intermission

ハチャトゥリヤン*: バレエ組曲『ガイーン』より
 Aram Khachaturian: Excerpts from *Gayane* Suite

「剣の舞」“Sabre Dance”

「アイシェの目覚めと踊り」“Ayshe’s Awakening and Dance”

「バラの乙女たちの踊り」“Dance of the Rose Maidens”

「レズギンカ」“Lezghinka”

ビゼー*: 組曲『アルルの女』第2番
 Georges Bizet: *L’arlésienne* Suite No. 2

- I. Pastorale II. Intermezzo
- III. Menuet IV. Farandole

*上野耕平が、オーケストラのメンバーとして出演します。
 Kohei Ueno will join in the orchestra.



©Masaaki Tomitori

指揮: 広上淳一
Junichi Hirokami, Conductor

1984年26歳でキリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールに優勝。これまでノールショピング響、リンブルク響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、コロンバス響のポストを歴任。フランス国立管、ベルリン放響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響、ウィーン響、サンクトペテルブルク・フィルなどへ客演を重ねる。オペラでもシドニー歌劇場へのデビュー以来、数々のプロダクションを指揮。現在、オーケストラ・アンサンブル金沢アーティストティック・リーダー、日本フィルハーモニー交響楽団 フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)、札幌交響楽団友情指揮者、京都市交響楽団 広上淳一、京都コンサートホール館長。



©S. Ohsugi

サクソフォーン: 上野耕平
Kohei Ueno, Saxophone

茨城県東海村出身。8歳から吹奏楽部でサクソフォーンを始め、東京藝術大学器楽科を卒業。第28回日本管打楽器コンクールサクソフォーン部門において、史上最年少で第1位ならびに特別大賞を受賞。2014年第6回アドルフ・サクス国際コンクールにおいて、第2位を受賞。現地メディアを通じて日本でもそのニュースが話題になる。デビュー以来、常に新たなプログラムにも挑戦し、サクソフォーンの可能性を最大限に伝えている。17年第28回出光音楽賞受賞。18年第9回岩谷時子賞 奨励賞受賞。NHK-FM「×(かける)クラシック」のMCやテレビ「題名のない音楽会」「情熱大陸」など、メディアへの出演も多い。音楽以外にも鉄道と車をこよなく愛し、深く追求し続けている。

Official Site: <http://uenokohei.com>



ナビゲーター: 高橋克典
Katsunori Takahashi, Navigator

神奈川県横浜市生まれ。1993年『抱きしめたい』で歌手デビュー。俳優として「サラリーマン金太郎」などのヒット作を得る。最近では2020年大河ドラマ「麒麟がくる」、22年NHK「正直不動産」、22年秋NHK朝ドラ「舞いあがれ」にはヒロインの父“岩倉浩太”役として出演。23年1月クール関西テレビ「畏の戦争」に出演。出演映画として22年5月『20歳のソウル』、22年8月『バイオレンスアクション』が公開。BSテレビ東京「ワタシが日本に住む理由」レギュラー出演、bayfm78「GROOVIN' ON THE ROAD」ではメインパーソナリティとしてレギュラー出演中。



©堀田力丸

日本フィルハーモニー交響楽団
Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月に故渡邊暁雄を中心に創立。「オーケストラ・コンサート」「リージョナル・アクティビティ」「エデュケーション・プログラム」という三つの柱で活動を行っている。首席指揮者ピエタリ・インキネン、首席客演指揮者カーチュン・ウォン(2023年9月より首席指揮者)、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名譽指揮者小林研一郎、フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)広上淳一という充実した指揮者陣を中心に演奏会を行い、“音楽を通して文化を発信”している。東日本大震災の被災地に音楽を届ける「被災地に音楽を」を11年4月より開始、22年末には320回を超えている。その活動が高い評価を受け、22年第16回後藤新平賞を受賞。「人に寄り添う」「温かさ」の土壌を大切にしながら、あらゆる人々へ、世代へ、地域へ、音楽の持つ様々な力を社会に活かしていくことを目指している。毎週水曜日22時54分～23時、BS朝日「Welcomeクラシック」出演中。
公式ホームページ japanphil.or.jp 公式Twitter @Japanphil

ドリーブ: バレエ組曲『シルヴィア』より 第4曲「バッカスの行進」

レオ・ドリーブ(1836～91)は“フランス・バレエ音楽の父”と呼ばれ、優美で繊細な舞台音楽を多く残した作曲家。この『シルヴィア』は狩りの女神ディアヌに仕えるニンフのシルヴィアと羊飼いの青年アマントによる、妖精と人間の恋物語だ。トランペットのファンファーレが印象的なこの曲は、村人たちが収穫祭のため捧げ物をもってバッカス神を称える場面の音楽である。ドリーブはリヒャルト・ワーグナー(1813～83)の影響を受け、金管楽器の用法に長けていた。コンサートの幕開けにふさわしい活気ある堂々とした曲想である。

ミヨー: 『スカラムーシュ』作品165c

近代フランスの作曲家、ダリウス・ミヨー(1892～1974)は、ブラジル公使となった詩人ポール・クローデルの秘書としてリオデジャネイロに赴き、そこで触れたラテン音楽に大きな影響を受けた。

“スカラムーシュ”とは伝統的なイタリア喜劇に登場する、臆病なくせに威張りやの道化のことである。ミヨーは友人のサクソフォーンの名手、マルセル・ミュール(1901～2001)のためにこの曲を作曲した。曲は第1曲「ヴィフ(速く)」第2曲「モデレ(中庸に)」第3曲「ブラジレイラ(ブラジル風舞曲)」からなり、なかでも第3曲の楽しいサンバのリズムが印象に残る。

ピアソラ(啼鵬 編曲): 『エスクアロ(鮫)』『オブリビオン(忘却)』『リベルタンゴ』

アルゼンチンが生んだ“タンゴの風雲児”と称されるアストル・ピアソラ(1921～92)の音楽は、ジャンルを超えて演奏者の心に火を灯し、聴く人の心に響く。

『エスクアロ』とは鮫のことで、ピアソラ自身が小ぶりの鮫を釣ることを趣味にしていたため、鮫の持つスピード感、しなやかな身のこなしなどが小粋に表現されている。

『オブリビオン(忘却)』はマルチェロ・マストロヤンニ主演のイタリア映画『エンリコ4世』の主題曲。歌手のミルバがフランス語の歌詞をつけて歌っていることでも知られている。“時の流れとともに大切なことを忘れてしまう”こと、“自分が、大切な人から忘れられてしまう”ことのみじみとしたさびしさが、印象的な旋律にのせて歌われ、聴く人の魂を強く揺さぶる。

『リベルタンゴ』は、“リベルタ(自由)”と“タンゴ”の合成語だ。現在、多くの歌手やダンサー、演奏家によって取り上げられ、TVCMなどでも頻繁に使用されている。まわりつくようなタンゴのリズムは次第にテンポを上げてゆき、聴く人を心地よい興奮と陶酔の世界へと導く。

ハチャトゥリヤン: バレエ組曲『ガイヌ』より
「剣の舞」「アイシェの目覚めと踊り」「バラの乙女たちの踊り」「レズギンカ」

ジョージア(旧グルジア)の首都トビリシ生まれのアルメニア人アラム・ハチャトゥリヤン(1903～78)は、プロコフィエフやショスタコヴィチらとともにソヴィエト楽壇を代表する大作曲家として知られる。ハチャトゥリヤンの音楽の特性としてアルメニアやコーカサス地方の影響の強さを挙げることができるが、これは彼が幼少時からアルメニア人、グルジア人、アゼルバイジャン人、クルド人、レズギ人などの民俗音楽に親しんできたからだろう。

1939年、モスクワで開かれた芸術週間でアルメニア共和国がバレエを上演する際に、アルメニア出身の政治家ミコヤンの依頼で作曲した『幸福』を母体として改作されたのが、バレエ音楽『ガイヌ』である。1942年にレニングラード国立バレエ団によって上演、その後新しい台本に基づいた大幅な改作を経て、57年にボリショイ劇場でモスクワ初演が行われた。

ビゼー: 組曲『アルルの女』第2番

戯曲『アルルの女』は、19世紀フランス文学界の自然主義作家アルフォンス・ドーデの同名の短編に基づくもので、不品行の女に捧げる若者の純情な愛と嫉妬、それに翻弄される家庭の悲劇をプロヴァンスの田園的風物を背景に描いている。ジョルジュ・ビゼー(1838～75)はパリ・ヴォードヴィル座の劇場支配人カルヴァアの依頼を受け、1872年に26人編成オーケストラのために27曲の舞台音楽を作曲した。劇そのものは成功しなかったものの音楽はとても好評で、直後に4曲をフル編成オーケストラの組曲に編曲した(第1番)。第2番はビゼーの死後、親友エルネスト・ギロー(1837～92)の編纂によって新たに4曲が編まれ、こちらも勝るとも劣らぬ人気を誇っている。

◆ 有料オンライン配信のお知らせ ◆

本日のコンサートのライブ配信映像を、リピート配信でご覧いただけます。お好きな時間と場所で何度でもお楽しみください。

視聴券 ¥2,200

視聴期間 2023年2月2日(木) 14:00～2月7日(火) 23:00

※デジタルサントリーホール(サントリーホール・メンバーズ・クラブWEB/チケットびあ)、イープラスでの取り扱い



デジタルサントリーホール
配信公演ページ「WATCH」
ボタンより、視聴券購入
画面にお進みいただけます。

SNSキャンペーン

Twitterで感想を投稿された方の中から、抽選で出演者サイン入りパンフレットをプレゼント
詳しくは、とっておきアフタヌーン @totteokiaftern 公式Twitterをチェック!



◆ 新シリーズのお知らせ ◆

日本フィル&サントリーホール にジクラ〜トークと笑顔と、音楽と

トーク付きで初心者にも安心。自然に“笑み”がこぼれて“心も元気”になる、平日2時のクラシックコンサートです。(13:40～オルガン・プレコンサート)

第1～3回共通
ナビゲーター: 高橋克典



第1回 2023年5月2日(火) 第2回 2023年9月26日(火) 第3回 2024年2月2日(金)



指揮: 永峰大輔
©T. Ikegami



ヴァイオリン: 神尾真由子
©Makoto Kamiya



指揮: 広上淳一
©Masaaki Tomitori



ヴァイオリン: 成田達輝
©Marco Borggreve



ピアノ: 萩原麻未
©Marco Borggreve



指揮: 大井剛史
©K. Miura



ピアノ: 小林愛実
©Makoto Nakagawa

3公演セット券
好評発売中!

3公演セット券

S席¥13,500

A席¥ 9,900

—1回券で買うよりお得!—

詳しくはHPをご覧ください▼





人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。



JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

創立指揮者 渡邊 暁雄



SUNTORY HALL